

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		杏林大学		設置者名		学校法人杏林学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
保健学部	健康福祉学科	40人	中一種免(保健)	平成5年度	76人	32人	31人	30人	
			高一種免(保健)	平成5年度			31人		
			養教一種免	平成5年度			32人		
	看護学科	100人	養教一種免	平成6年度	95人	29人	29人	10人	
総合政策学部	総合政策学科	170人	中一種免(社会)	平成5年度	198人	5人	5人	0人	
			高一種免(公民)	平成5年度			5人		
	企業経営学科	100人	中一種免(社会)	平成5年度	88人	0人	0人	0人	
			高一種免(公民)	平成5年度			0人		
外国語学部	英語学科	110人	中一種免(英語)	平成5年度	87人	6人	6人	1人	
			高一種免(英語)	平成5年度			6人		
入学定員合計		520人	合計		544人	72人	145人	41人	
大学名		杏林大学(大学院)		設置者名		学校法人杏林学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
保健学研究科	保健学専攻	7人	中専免(保健)	平成6年度	9人	3人	1人	0人	
			高専免(保健)	平成6年度			1人		
			養教専免	平成6年度			1人		
国際協力研究科	国際開発専攻	25人	中専免(社会)	平成6年度	9人	1人	0人	0人	
			高専免(公民)	平成6年度			1人		
			高専免(商業)	平成6年度			0人		
	国際文化交流専攻	22人	中専免(英語)	平成6年度	25人	0人	0人	0人	
高専免(英語)			平成6年度	0人					
中専免(中国語)			平成6年度	0人					
高専免(中国語)			平成6年度	0人					
入学定員合計		54人	合計		43人	4人	4人	0人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年12月10日（金）

実地視察大学：杏林大学

実地視察委員：安彦忠彦委員、新藤久典委員、渋谷治美委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・三鷹、八王子の2キャンパスにおいて、保健学部2学科、総合政策学部2学科、外国語学部1学科、保健学研究科1専攻、国際協力研究科2専攻で教員養成を行っている。

<講評>

- ・各学科に置かれる教職課程の教育課程、教員組織については、法令等の基準を満たしている。今後も引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めてほしい。
- ・必要書類の未提出を防ぐためにも、事務のチェック体制の強化に努めてほしい。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・建学の精神「真・善・美の探求」を通じて、真理を真摯に追究し、他者をいたわり思いやる人格・人間性を備え、優れた感性や風格を身につけ、ひとのために尽くすことができ、さらに国際性のある教員を育成することを理念としている。

<講評>

- ・大学としての教員養成に対する理念・構想は示されているが、その理念を具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるように、これらの充実した取り組みに一層努めてほしい。
- ・保健学部におけるカリキュラムの充実、積極的な取組は大変評価できるものである。他学部を含めた全学的な取組を今後期待したい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・「教職に関する科目」について、教育現場における教職経験を有する者を担当教員として充てるなどして、教授内容の更なる充実を図ること。
- ・『教育相談（カウンセリングを含む）』については、‘カウンセリングに関する基礎的な知識’の内容を含めるとともに、そのことがシラバス上確認できるようにしてほしい。
- ・学生のコミュニケーション能力を養うためにも、授業の中で、グループワーク等の人と接する機会を増やしていただきたい。
- ・シラバスの授業計画欄について、複数回に亘って同様の授業内容を記載することは認められないため、各回のキーワードを付すなどして、必ず各回で異なる内容を扱

うことが分かるよう修正すること。

- ・授業の到達目標及びテーマ欄において、当該科目の履修により学生に修得させようとしている知識技能を具体的に明示することが望ましい。
- ・出席を積極的に評価に加えている授業があるが、授業に出席するのが前提なので、評価方法を見直すことが望まれる。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・実習校については、協力校、東京都公立学校、母校に依頼して確保している。
- ・実習生に対する指導の方法について、実習先が関東近県であれば訪問指導を行い、訪問が困難な場合はメールや電話で指導を行っている。
- ・実習の評価は、実習校の評価、日誌、事後指導・研修などを科目担当者が総合的に判断している。
- ・学内においては、教職課程委員会及び教職課程小委員会が各学部・学科等との連絡調整を行っている。
- ・学外の関係機関と連絡調整等を行う組織はない。

<講評>

- ・教育実習については、実習校への訪問指導を行うなど十分に対応している。さらに充実させるために、マイクロティーチングを取り入れる等の工夫をしてほしい。
- ・教育学部以外の学部については、教育実習を原則4年次に行うこと。
- ・母校実習については、中央教育審議会での大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されており、できるだけ避ける方向で検討して欲しい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・八王子市教育委員会と連携・協力のもと、小学校、中学校において学校インターンシップ及び学校ボランティアを実施し、2単位の科目として単位認定している。
- ・「学習補助モーニングスクール」「部活動補助」等の児童・生徒に関わる地域活動への積極的な参加を呼びかけている。

<講評>

- ・今後とも関係機関と連携しつつ、積極的な取組を実施してほしい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・履修指導・履修相談は、各学年に応じたガイダンスを実施しているが、2年次前期には3年次実習ガイダンス、2年次後期には4年次実習ガイダンスを実施することにより、教員への希望を具体化させている。
- ・2年次後期に教員採用試験ガイダンスを実施して、採用試験対策の方法等を伝えて

いる。

- ・ 3年次には採用試験対策講座を年に3回実施している。
- ・ 外部の採用試験模擬試験を割引で受験できる体制をとっている。

<講評>

- ・ 教職課程履修案内をパソコンでも閲覧できるように、ネットワーク化を推進してほしい。
- ・ 総合政策学部及び外国語学部において、学科の専門科目の開設時間帯との編成を整理するなど、学生の教職課程科目の履修を困難にしている状況を改善してほしい。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・ 全学的組織である「教職課程委員会」を設け、教職課程の充実や運営上の諸問題の解決・調整に当たっている。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・ 学内施設・設備、図書蔵書数、情報機器等については、学生数の規模に応じて十分に備えられている。